

## 1 鎌倉市地域福祉計画の評価シートの目的について

本評価シートは、鎌倉市地域福祉計画に掲げる取組を、単なる実施状況の確認にとどめず、地域や関係機関の動き・関係性の変化を捉えながら、次年度の改善につなげていくための進捗管理・評価ツールとして作成したものです。

本計画では、第5章「計画評価と推進体制」において、取組のプロセスや地域における質的な変化を重視し、市・関係機関・地域の多様な主体が評価に参画しながら、計画を育てていくことを評価の基本的な考え方としています。

本評価シートは、このような考え方を定期的な評価の場面で共有し、目指す方向性を互いに具体的に確認するために活用することを想定しています。

各評価シートでは、「取組と目標を結ぶビジョン」を起点に、現在の取組状況を段階的な評価の視点に照らして整理し、「いま、どの段階にあるのか」「どのような変化や課題が見えているのか」「次にどの段階を目指すのか」「昨年度に設定した課題や目標にどのようにアプローチしてきたか」を関係者間で確認できる構成としています。

特に、目標2と目標3については、世帯への包括的支援や制度の狭間の課題に取り組む必要性を踏まえ、各事業・取組の担当者が制度の縦割に陥ることなく、視野を広く持って関係機関と連携し、関連する目標の達成につなげられるよう、評価シートを通じて点検と整理を促すことを狙いとしています。

これにより、取組の成熟度や連携の広がりを可視化し、年度ごとの振り返りや次年度の取組検討に活かすことを目的としています。

本シートを通じて、日々の取組を振り返ることそのものが地域に関わるすべての人の対話と関係構築の機会となり、鎌倉市の地域福祉の取組が持続的に発展していくことを期待しています。

## 2 鎌倉市地域福祉計画の評価のシートの見方について

目標	目標1 地域で安心して暮らし、活動できるまちづくりの推進	【評価参画者】 評価に関わる主体。関係機関や事業者など、取組に関わる立場の視点を取り入れながら評価を行います。
施策	(ブルダウんで選択)	
取組と目標を結びビジョン	(ブルダウんで選択)	
取組名称		
評価参画者	<input type="checkbox"/> 市 ( ) 課 <input type="checkbox"/> 市社協 <input type="checkbox"/> 地域団体 ( ) <input type="checkbox"/> 地域住民 (地域の活動やボランティアの担い手含む) ( )	【評価の視点】 現在の取組状況が、どの段階かを確認する評価軸。 事業の実施有無だけでなく、関係者の動きや連携の深まり、変化の度合いに着目して該当する段階を選びます。
当年度に取り組みたいこと		
進捗の段階 (評価の視点)	<input type="checkbox"/> 理解・共感の醸成が進む (地域での福祉教育や防災訓練、場づくり等において、相互理解や関係性が育つような工夫が取り入れられ、「支え合うこと」「配慮が必要な人がいること」の共通理解が広がっている) <input type="checkbox"/> はじめての人が気軽に来られる場・機会の充実が進む (居場所、行事、交流機会など、「役割を求められずに」「約束なく」「自分ら」が増え、若者・初参加者・おひとりさまを含めた参加の選択肢が広がっている) <input type="checkbox"/> ゆるやかな見守りの定着が進む (声かけ・気づき・つながり等のゆるやかな見守りが、住民が取り入れやすい形で) <input type="checkbox"/> 小さな役割と出番が増える (地域において、短時間・単発・得意分野での関わりなど、小さな役割や出番が地域と関わったり手伝ったりできる) <input type="checkbox"/> 関係・ネットワークの更新が進む (地区社協・地域団体・ボランティア・学校等のつながりにおいて、世代差や担い手等の現実に対応するため、運営形態・参加形態・地域住民とのつながり方の見直し) <input type="checkbox"/> 災害時を見据えた高齢者・障害者・子育て等の支援が地域にひろがっている (平時のつながり・見守りが、避難支援や災害時の助け合いにつながる形で整い、高齢者・障害者・子育て等の支援が地域の仕組みの一部になっている)	
実施状況 (事例なども交えて要点を記載)		
課題・次年度に取り組んでみたいこと		

※2年目以降の「当年度に取り組みたいこと」には、前年度の「課題・次年度に取り組んでみたいこと」を転記してください。